

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2024年第12週 (3月18～24日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数/累積。累積は2024年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類] (報告なし)		
[2類]		
結核	223	3041
[3類]		
細菌性赤痢	1	11
腸管出血性大腸菌感染症	22	276
腸チフス		4
パラチフス		1
[4類]		
E型肝炎	8	123
A型肝炎	3	21
エキノкокクス症		2
エムボックス ¹⁾		9
回帰熱		1
Q熱		6
重症熱性血小板減少症候群	1	8
つつが虫病	1	58
デング熱	5	37
日本紅斑熱		3
日本脳炎		1
マラリア	1	5
レジオネラ症	27	383
レプトスピラ症		1
[5類]		
アmeerバ赤痢	3	118
ウイルス性肝炎 ²⁾	5	38
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	19	400
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾		6
急性脳炎 ⁵⁾	5	156
クリプトスポリジウム症	1	6
クロイツフェルト・ヤコブ病	2	41
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	25	556
後天性免疫不全症候群	4	215
ジアルジア症	2	8
侵襲性インフルエンザ菌感染症	4	144
侵襲性髄膜炎菌感染症		9
侵襲性肺炎球菌感染症	42	623
水痘 (入院例に限る)	2	93
梅毒	130	2814
播種性クリプトкокクス症	4	47
破傷風	1	17
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2	30
百日咳	4	125
風しん	1	1
麻疹	1	21

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数/定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	69510	14.08
新型コロナウイルス感染症	25727	5.21
RSウイルス感染症	1812	0.58
咽頭結膜熱	2199	0.70
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11523	3.67
感染性胃腸炎	13441	4.28
水痘	409	0.13
手足口病	522	0.17
伝染性紅斑	53	0.02
突発性発しん	657	0.21
ヘルパンギーナ	70	0.02
流行性耳下腺炎	80	0.03
急性出血性結膜炎	12	0.02
流行性角結膜炎	286	0.41
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	10	0.02
無菌性髄膜炎	13	0.03
マイコプラズマ肺炎	40	0.08
クラミジア肺炎 ⁸⁾	3	0.01
感染性胃腸炎 (ロタウイルス) ⁹⁾	12	0.02
インフルエンザ (入院患者)	305	—
新型コロナウイルス感染症 (入院患者)	1950	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) オウム病を除く。9) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	↓	新潟、富山、山形
新型コロナウイルス感染症	↓	秋田、宮城、岩手
RSウイルス感染症	↑	大阪、奈良、福井
咽頭結膜熱	↓	鹿児島、岩手、新潟
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	北海道、新潟、山形
感染性胃腸炎	↓	富山、大分、愛媛
手足口病	↓	福井、鹿児島、岡山、宮崎
伝染性紅斑	↓	滋賀、山口、愛媛
ヘルパンギーナ	↑	高知、島根、沖縄、香川
流行性耳下腺炎	↑	岐阜、徳島、宮崎、沖縄
マイコプラズマ肺炎	↓	沖縄、大阪、青森、福井

◆ニパウイルス感染症：バングラデシュ人民共和国

1月30日と2月7日、国際保健規則 (IHR 2005) に基づくバングラデシュの連絡窓口 (NFP) は、疫学的に関連性の認められない2件のニパウイルス感染例をWHOに通知した。バングラデシュで、ニパウイルス感染症の発生は季節的なもので、例年、12月～4月に患者が発生している。